

# 楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.69

日時	2014年1月25日
行脚先	守田菘洲旧居
住所	福岡県行橋市(豊前国)
行事名	

## 特徴

福岡県行橋市の沓尾村で、代々庄屋職を務めていた守田家の屋敷です。  
新田開発のための干拓事業で功績を残した27代当主・守田菘洲(もりたさしゅう/1824~1910年)の頃、江戸時代末期に建てられました。  
「菘洲亭(さしゅうてい)」と呼ばれており、伊藤博文が菘洲亭と書いた額も残っています。  
菘洲は私塾水哉園で塾生代表を務めた俊才で、10の村をまとめる平島手永大庄屋を務め、漢学者の村上仏山や政治家末松謙澄らと親交がありました。  
中央にも顔が広く「菘洲翁古希の祝い」として伊藤博文、山縣有朋、大山巖や画家富岡鉄斎らから和歌や漢詩などを贈られたそうです。  
旧居は土地が約2400平方メートル、建物は木造平屋一部2階建て約430平方メートルの屋敷で、奥座敷や広間などを備え、18の部屋があります。

## 黒田官兵衛との関わり

黒田二十四騎の一人として、関ヶ原合戦など数々の功績を挙げ、槍の使い手として豪勇をうたわれた名将「後藤又兵衛」。  
慶弔11年(1606年)、益富城主であった後藤又兵衛は、黒田長政との確執により黒田藩を出奔します。  
その際、又兵衛は小倉藩主・細川忠興を頼って小倉藩に潜入しました。  
しかし、黒田長政は又兵衛を「奉公構」(他の大名が抱えることを禁ずる)に処しました。  
それを受けた細川忠興は、小倉の城下町を避け、ひそかに行橋の地に又兵衛を匿ったそうです。  
後藤又兵衛が行橋で過ごしたのは短い期間でしたが、行橋を去る際、世話になった沓尾浦庄屋の守田家に自身の用いた「槍」、長男・伊勢松が書いた「掛け軸」、そして次女・「久子」を置いていきました。

## 記録

